平成 28 年度新採用薬剤師ステップアップ研修会　開催報告

平成 28 年 7 月 23（土）、標記研修会を鳥取県中部の倉吉市にある倉吉体育文化会館［小研修室 1］において、8 施設 13 名の新採用薬剤師の参加のもと開催いたしました。

１．目的

本研修会は、鳥取県内の病院・診療所に新採用になった薬剤師が採用後約 3 ヶ月経過したところで、これまでの業務あるいは各施設内の研修で学んだことを振り返り、次のステップに進むための夢や方向性について考えていただくために、病院薬剤師を取り巻く環境や業務の変遷、業務に関するトピックスや実施例を当県でご活躍中の先輩方から御紹介いただくもので、毎年、この時期に開催しています。

また、新人の皆様にとっては、東・中・西部と横に 100km 以上もある県内の他支部の新人と初顔合わせをし、日頃の疑問や問題点について情報交換し、横のつながりを構築できるまたとないチャンスになっています。

なお、本年度は、「薬剤師業務における医療安全対策」および「ポリファーマシー対策」をテーマに行いました。

２．プログラム

当日は、13 時より受付を開始し、以下のプログラムに沿って行いました。

13:30～14:10　基調講演「薬剤師の責務と職能の展開」
　　鳥取県病院薬剤師会会長(鳥取大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)
　　島田 美樹 先生
14:10～14:50　教育講演Ⅰ「薬剤師業務における医療安全対策」
　　山陰労災病院 薬剤部長　　中西 志子 先生
14:50～15:05　休憩
15:05～15:45　教育講演Ⅱ「ポリファーマシー対策について」
　　鳥取赤十字病院 薬剤部長　國森 公明 先生
15:45～16:00　休憩
16:00～17:00　小グループ討論（ＳＧＤ）：受講者を 2 グループに分け、下記テーマで
　　グループ１）ポリファーマシー（多剤処方）を解消するための方策
　　グループ２）医薬品関連の医療事故をなくすための方策

17:00　　総括・閉会

３．概略

基調講演：島田会長は、日本薬学会教育委員会の提言「薬剤師として求められる基本的な資質」に沿って、〇薬剤師としての心構え、〇患者・生活者本位の視点、〇コミュニケーション能力、〇チーム医療への参画、〇基礎的な科学力、〇薬物療法における実践的能力、〇地域の保健・医療における実践的能力、〇研究能力、〇自己研鑽、〇教育能力など、社会が期待している薬剤師とはどのようなものなのかを提示されました。

そして、このような資質が求められるようになった背景として〇災害時にも対応できる総合力：限られた情報やマンパワーの中で、持参薬の確認・把握、医師の処方支援、患者・家族への情報提供などを的確に行うためにはジェネラリストとしての能力が必須であること、〇医療の高度化に対応できる専門薬剤師：がん治療や感染症治療をはじめとする様々なチーム医療の中では特定の専門領域における高い専門性が求められること、などを挙げられ、卒後２～３年で業務全般を把握し、５～８年で１つの専門領域を持てるように目標をかかげていくと良いこと。また、専門領域を持つことで高まった知識・技能に合わせて周辺のジェネラルな部分を埋めて高くしていくことで、偏った専門家ではなく、層の厚いジェネラリストになることが出来る。と、学び方のコツを伝授いただきました。

続いて、薬剤師の研究マインドとは？というテーマに触れられ、「医療者として患者さんの役に立てる課題を探求していく」のが理想であり、例えば、患者さんに副作用と思われる徴候が発現したら、〇因果関係の疑われる薬の特定、〇中止・減量の提言、〇何故、起こったのかを探索、〇次の患者さんへのフィードバック、を行っていくというような流れが基本的な研究の考え方につながっていくこと、日頃、気になった処方せんの解析を行ってみるだけでも思考訓練になること、などをご紹介いただき、参加者全員が示唆に富んだお話や事例の数々を熱心に視聴していました。

最後に、「今日、患者さんや他の医療従事者から、薬剤師の臨床現場での活躍に多くの期待が寄せられている」、「周囲の期待に応え、薬剤師としての責任を果たすためには、生涯研鑽を積まなければならない」と、新採用者への熱いエールを送られました。

島田先生による基調講演

教育講演Ⅰ：中西先生からは、「薬剤師業務における医療安全対策」と題して、「安全で質の高い医療を提供するための薬剤師の関わり」を中心に、持参薬の確認や患者情報に基づいた入院中の服薬計画の提案、注射薬等全ての使用薬剤を含めた薬効評価と副作用モニタリングの実施、服薬指導への反映のコツなど詳細に講演いただきました。中でも、併用禁忌薬に関するインシデント事例や感受性試験結果を参照した抗菌薬の変更提案事例など「病棟薬剤師業務」における具体的な内容を紹介されたところでは、近い将来、参加者自身も行う業務であるためか、参加者全員が真剣な表情で聴講していました。また、地域の薬剤師会との連携強化による医療安全への取り組み事例についても紹介いただき、医師の処方意図を理解してもらうための研修会の開催や退院後のシームレスな管理指導のための情報提供方法など院外処方せんの発行元としてのきめ細かな配慮が薬物療法成功のカギであることを実感させられました。

中西先生御講演

教育講演Ⅱ：國森先生には、「ポリファーマシー対策について」と題して講演いただきました。國森先生はこれまで、様々な医療チームの中心的存在として活躍してこられただけあり、「薬剤師のパフォーマンスは医師をはじめとする多くの医療職から期待されている。期待に応えるためにも科学的根拠に基づいた実践力を身に付けることが第一歩である。」と説得力の溢れたイントロから始まりました。参考になる資料の一つとして日本老年医学会の「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」を挙げられ、資料に示されている「多剤併用における薬剤師の役割」を例に、「患者さんの処方情報をすべて把握し、医師の処方意図をくんだ上で、重複投与や併用禁忌の回避、病態ならびに腎・肝機能に基づいた用法・用量の調節まで提案・提言することがこれからの薬剤師業務では必須になってくる。」「薬物治療を任されるということは責任をとる覚悟を持って取り組まなければならない。」と説かれ、既に行っている具体例として、入院時持参薬への対応（降圧薬、抗凝固薬、漢方薬の中止など）を示されました。

続いて、「チーム医療において求められる実践力・応用力」の習得方法に触れられ、他の医療職と同じ土俵で会話が出来るように、○院内研修会、病棟カンファレンスや医師会等が主催する勉強会にも積極的に参加し、疾患や治療に関する共通言語を身に付ける。○身近な先輩薬剤師の薬剤管理指導記録やカルテ記載を見て、業務の流れをつかむ。○高齢者の体の変化など薬物治療に関連する基礎知識を充実させる。などのノウハウについてご教示いただきました。また、病棟薬剤師業務の魅力について他の医療職との関わり（協働）を中心に解説がなされ、チーム医療に参画すること自体が薬剤師の能力開発にも繋がるのだという実感を持つことが出来ました。

最後に、「ポリファーマシー対策とは、単に薬の数を減らすことが目的ではなく、薬物療法の安全性、有効性向上が真の目的である」こと、その結果として薬の数が減ってこそ社会の期待に応えたことになることを説かれ、次の世代をになう新人薬剤師への期待も込めて、激励いただきました。

國森先生御講演

小グループ討論（ＳＧＤ）：講演に続いて、参加者を２つの小グループに分け、KJ 法と二次元展開法を利用して、グループ１には「ポリファーマシー（多剤処方）が起こるのは？」、グループ２には「医薬品関連の医療事故が起こるのは？」のテーマでディスカッション（ＳＧＤ）してもらい、その結果を発表してもらったところ、グループ１からは「薬剤師に患者さんの治療結果に責任を持つという覚悟が足りないから、医師にアピール出来ていないのでは」「現場で多剤併用のデメリットを示すためには、病態の評価が出来るような学習を積む必要がある」などの意見が、グループ 2 からは「医薬品関連の事故を減らすためには薬剤師も含めて個々の能力をもっと上げていく必要がある」などの新採用者とは思えないような的確な意見が多く出され、薬剤師の明るい未来を感じさせられました。

ＫＪ法の様子

（グループ 1）

（グループ 2）

成果発表の様子

おつかれさまでした。最後は、集合写真を取って解散しました。

集合写真

４．謝辞

御講演いただきました先生方ならびに事務局の皆様ありがとうございました。

（文責：学術・生涯研修委員会委員長　森田俊博）